

ハネナガモクメキリガ チョウ目ヤガ科

Xylena nihonica (Hone)

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

暖地性の種で石川県が国内分布の北限にあたり、個体数がきわめて少ない。

形態

開張50mm前後である。前翅は幅が狭く細長いのが特徴である。前翅の斑紋や色彩は個体変異が大きい。

国内分布

日本特産種。本州、四国、九州の暖温帯林に分布し、北限は日本海側が石川県、太平洋側が関東南部である。西南暖地では個体数が多い。

県内分布

加賀市の錦城山と片野鴨池および金沢市の金沢城跡の3箇所記録があり、いずれも照葉樹林の多い所である。

生態

成虫は年1回、10月から11月に出現し、そのまま越冬、翌春の3～4月に再び活動する。幼虫はサクラやカシで育つので、食性は広いようである。平地の照葉樹林または照葉樹林を含む二次林に生息する。

生息地の条件

常緑カシを含む照葉樹林ないし平地林が存在することが重要である。

生存の危機

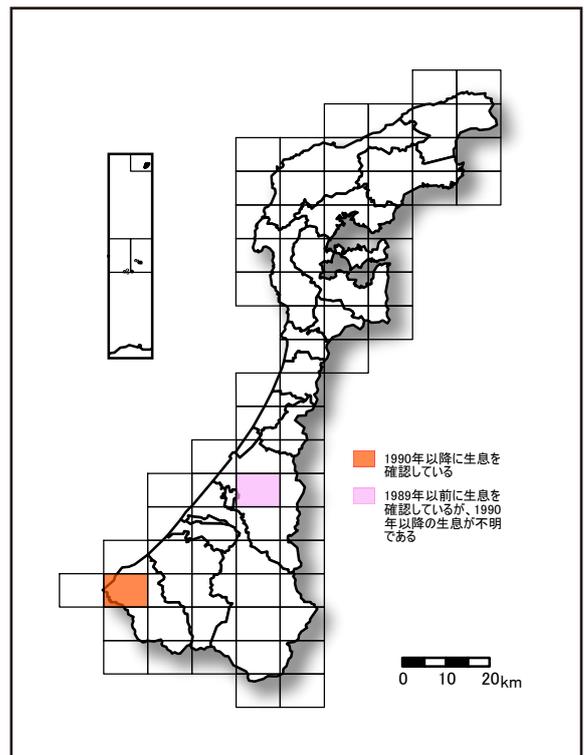
加賀海岸丘陵地の照葉樹林を含む平地林は農耕地や宅地に変貌しつつあり、生息地が狭小化している。本種の生息する社叢林や城跡は、現状のままの環境を維持するべきであるが、金沢城跡は樹木の伐採が進行し、本種のすめる環境ではなくなった。(A)

参考文献

井上 寛ほか 1982. 日本産蛾類大図鑑, 966pp. 講談社. 東京.



標本提供者: 富沢章



県内の分布